



chapter 05

基本理念と経営の基本方針

水道を取り巻く環境は、少子高齢化による人口減少や施設の老朽化等により、拡張から更新時期に移行していくことが明らかとなっています。また、近年の自然災害、大規模地震の教訓により、水道は重要なライフラインの一つとして認識され、平常時はもとより非常時においても一定の給水を確保するために、水道施設の強靱化が求められています。

安心で安全な水道事業を次世代に引き継ぐためには、適切な維持管理や更新により水道施設を健全に保ち、長期的戦略により経営基盤を強化し、安定した事業を継続していくことが重要となります。

本市においては、将来にわたり、いつでも安心しておいしい水を飲める水道を継承していくために、基本理念を『安全でおいしい水を 次代につなぐ』と定め、さらには、『安全』『強靱』『持続』の各施策における基本方針を明確化することにより、50年、100年先の常滑市の水道に向けた方策を示します。



2 経営の基本方針

本市の水需要は、空港島及び対岸部に進出した企業における就労人口の増加と、旅客による水利用の増加により、増加傾向を維持しています。しかし、将来的には全国的な傾向である人口減少や、節水機器の普及と性能向上等による水需要の減少は避けられず、給水収益の減少による水道事業の経営面への影響が予想されます。

一方で、施設整備としては、基幹管路の老朽化対策、耐震化対策を進めていますが、給水範囲が広く高低差があるため加圧送配水施設を必要とし、これらの施設が更新時期を迎えることから、多額の更新費用が必要となります。

本市の経営の基本方針は、「常滑市水道事業ビジョン」の基本理念である「安全でおいしい水を次代につなぐ」を経営面において実現するために、将来に向けた財源を十分に確保する必要がある、以下のとおり定めます。

【効率的な運営】

- ・お客様サービスの向上に努め、水道事業の効率的な運営を目指します。民間委託の活用により、窓口受付と検針業務等の安定した体制を確保します。

【重点的な投資】

- ・給水収益により投資のための財源を確保し、重点的な投資として災害時重要給水施設までの管路耐震化と応急給水栓を設置します。

【資産の計画的更新】

- ・本市は、地形的な要因から、3箇所の主要な配水場に加え、小規模な配水場及び加圧送配水施設が点在しており、同規模事業体と比較して多くの資産を有しています。資産の規模と更新履歴を把握・整理し、計画的に更新を進めます。

【給水収益の安定】

- ・中部国際空港の開港後は給水収益が増加傾向にありましたが、令和2年にコロナ禍の影響を受け給水収益が減少しました。その後、徐々に回復をみせています。引き続き、安定した給水収益の確保を目指します。

【財源の確保】

- ・本計画期間内の投資計画に対する財源を確保するだけでなく、次期施設整備計画への財源を確保する体制を目指すとともに、災害時に必要な資金確保を目指します。